

4. 6か国は、北東アジア地域の永続的な平和と安定のための共同の努力を約束した。(略)
5. 6か国は、「約束対約束、行動対行動」の原則に従い、前記の意見が一致した事項についてこれらを段階的に実施していくために、調整された措置をとることに合意した。
6. 6か国は、第5ラウンドの6か国の会合を、北京において、2005年11月初旬の、今後の協議を通じて決定される日に開催することに合意した。

(英文テキストをもとに翻訳した。英文テキスト：https://www.mofa.go.jp/region/asia-paci/n_korea/6party/joint0509.html(2021年4月15日アクセス))

8. 2018年南北首脳「板門店宣言」



朝鮮半島南北首脳の間共同声明としては3回目。しかし、2018年の宣言は、同年6月の米朝首脳共同声明と対をなし、合意内容の具体性において、従来とは異なる歴史的な意味を持つ。2017年に頂点に達していた朝鮮半島における戦争の危機を回避し、緊張緩和に向けて大きな役割を果たした。

❖ 朝鮮半島の平和と繁栄および統一のための板門店宣言 ❖

大韓民国の文在寅大統領と朝鮮民主主義人民共和国の金正恩國務委員長は、平和と繁栄、統一を念願する全民族の終始一貫した志向を盛り込み、朝鮮半島で歴史的な転換が起きている意義深い時期である2018年4月27日、板門店の平和の家で南北首脳会談を行った。

両首脳は朝鮮半島でこれ以上戦争がなく、新たな平和の時代が開かれたことを8千万の我が民族と全世界に厳粛に宣明した。

両首脳は冷戦の産物である長い間の分断と対決を一日も早く終息させ、民族的和解と平和繁栄の新たな時代を果敢に開き、南北関係をより積極的に改善し、発展させていかなければならないという確固たる意志を込め、歴史の地、板門店で以下の通り宣言した。

(1) 南と北は南北関係の全面的で画期的な改善と発展を成し遂げることで、途切れた民族の血脈を結び、共同繁栄と自主統一の未来を早めていく。

南北関係を改善し、発展させることは、全民族の終始一貫した望みであり、これ以上先送りできない時代の切迫した要求である。

- ① 南と北は、我が民族の運命は我々自らが決定するという民族自主の原則を確認し、すでに採択された南北宣言と全ての合意を徹底的に履行することで、関係改善と発展の転換的的局面を開いていく。
- ② 南と北は高位級会談を始めとする各分野の対話と交渉を早い時期に開催し、首脳会談で合意された問題を実践するため、積極的な対策を立てていく。
- ③ 南と北は当局間協議を緊密に行い、民間交流と協力を円滑に進めるため双方の当局者が常駐する南北共同連絡事務所を開城地域に設置する。
- ④ 南と北は民族的和解と団結の雰囲気を高めていくため、各界各層の多方面での協力と交流・往来と接触を活性化していく。6・15宣言を始め、南北ともに意義がある日を契機に当局と国会、政党、地方自治体、民間団体など各界各層が参加する民族共同行事を積極推進し、和解と協力の雰囲気高め、外にむかっては2018年アジア競技大会を始めとする国際競技などに共同で参加し、民

族の知恵と才能、団結した姿を全世界に誇示する。

⑤南と北は、民族分断で発生した人道的問題を至急解決するために努力し、南北赤十字会談を開催し、離散家族、親戚の対面を始めとする諸般の問題などを協議、解決していく。当面、来たる8月15日を契機に離散家族、親戚の面会を進める。

⑥南と北は民族経済の均衡ある発展と共同繁栄をなしとげるため、2007年10・4宣言で合意された事業を積極的に推進し、一次的に東海線及び京義線の鉄道と道路を連結し、現代化し、活用するため、実践的な対策などをとっていく。

(2)南と北は朝鮮半島で先鋭化した軍事的な緊張状態を緩和し、戦争の危険を実質的に解消するために、共同で努力していく。

①南と北は、陸、海、空を始めとする全ての空間で、軍事的緊張と衝突の根源となっている相手に対する一切の敵対行為を全面中止する。

当面、5月1日から軍事境界線一帯で、拡声機放送(軍事宣伝)とビラ散布を始めとする全ての敵対行為などを中止し、その手段を撤廃し、今後、非武装地帯を実質的な平和地帯にしていく。

②南と北は西海(黄海)の北方限界線一帯を平和水域とし、偶発的な軍事的衝突を防止し、安全な漁業活動を保証するため、実際の対策を立てる。

③南と北は相互協力と交流、往来と接触が活性化されるよう様々な軍事的な措置をとる。南と北は、双方の間に発生する軍事的問題を遅滞なく協議、解決するため国防部長官(国防相)会談をはじめとする軍事当局者会談を頻繁に開催する。5月中にまず、将官級軍事会談を開く。

(3)南と北は朝鮮半島の恒久的で強固な平和体制を構築するために、積極的に協力していく。

朝鮮半島で正常とは言えない現在の休戦状態を終息させ、確固とした平和体制を樹立することは、これ以上先送りできない歴史的な課題である。

①南と北は、そのいかなる形態の武力も、お互いに使用しないとす不可侵合意を再確認し、厳格に順守していく。

②南と北は軍事的緊張が解消され、お互いの軍事的信頼が実質的に構築されるのに従い、段階的に軍縮を実現していく。

③南と北は休戦協定締結65年になる今年に終戦を宣言し、休戦協定を平和協定に転換し、恒久的で強固な平和体制構築のため南・北・米3者または南・北・米・中4者会談の開催を積極的に推進していく。

④南と北は完全な非核化を通じて、核のない朝鮮半島を実現するという共通の目標を確認した。南と北は北側の主導的な措置が朝鮮半島の非核化のために、非常に意義があり、重大なものであるという認識をともにし、今後、それぞれ自らの責任と役割を全て果たす。南と北は朝鮮半島の非核化のための国際社会の支持と協力のために積極的に努力する。

両首脳は定期的な会談と直通電話を通じ、民族の重大事項を随時、真摯に論議し、信頼を堅固にし、南北関係の持続的な発展と朝鮮半島の平和と繁栄、統一に向けた良い流れをさらに拡大していくために、ともに努力する。

文在寅大統領は今年秋に平壤を訪問する。

2018年4月27日 板門店

大韓民国大統領 文在寅 朝鮮民主主義人民共和国國務委員会委員長 金正恩

(デジタル朝日の日本語テキストと韓国大統領府の英文テキストをもとに作成した。)